

栄養士養成課程学生の地域での食育実践活動

～学生主体の食育活動が学生の学びに及ぼす影響について～

垣 渕 直 子・上 北 采 佳・次 田 一 代

I はじめに

栄養士が携わる食育活動は多種多様であり、代表的なものとしては食生活や栄養バランスに関する指導¹⁾などがある。食育活動を効果的に行うためには、どのような活動を行うかだけでなく、栄養士がどのような意義や目的をもって活動を行うかも影響する。また、効果的な食育活動を実施するためには、活動の目的や目的を達成するための具体的方法を十分に検討しなければならない^{2) 3)}。

平成17年に制定された食育基本法の基本的な方針や目標について、令和3年度から展開されている第4次食育推進基本計画では、(1)生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進として、「人生100年時代」に向けて、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸を実現し、全ての国民が健全で充実した食生活を実現することを目指し、家庭、学校・保育所、職場、地域等の各場面において、地域や関係団体の連携・協働を図りつつ生涯を通じた食育を推進する。また、子供のうちに健全な食生活を確立することは、生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育てていく基礎となることに留意することとされている。また、(2)持続可能な食を支える食育の推進では、食と環境の調和：環境の環(わ)として、国民の食生活が、自然の恩恵の上に成り立つことを認識し、食料の生産から消費等に至る食の循環が環境へ与える影響に配慮して、食におけるSDGsの目標

12「つくる責任・つかう責任」を果たすことができるよう国民の行動変容を促すことが求められている⁴⁾。なお、(3)地域における食育の推進では生活習慣病の予防及び改善や健康づくりにつながる健全な食生活の推進等、家庭、学校、保育所、生産者、企業等と連携・協働しつつ、地域における食生活の改善が図られるよう、適切な取り組みを行うことが必要である。また、主食・主菜・副菜がそろった栄養バランスに優れた「日本型食生活」の実践の推進も重要である。特に、若い世代から健康な生活習慣を身に付ける必要があり、食物や情報へのアクセスなど、健康な生活習慣を実践しやすい食環境づくりが重要である。とされている。

食物栄養専攻では平成23年度より、公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金の助成を受け学生による企画提案活動支援事業を学内で実施している⁵⁾。この事業では「生活文化にふれよう！」と題し、小学生を対象とした調理実習を中心とした事業を実施してきた。また、令和元年度より近隣の市町の「子ども食堂」での調理や栄養指導を中心とした食育活動、及び幼稚園及び保育園での食育活動もボランティア活動として実施している。

また、前報⁶⁾で筆者らが食物栄養専攻の参加学生に行ったアンケート調査では、自分たちが主体となり活動した学生たちからは、「達成感がある」、「考える力や適応力がつく」など前向きな意見が多いという結果がみられた。また実施前と実施後に経済産業省の「社会人基礎力⁷⁾」の変化をみるための調査を行ったところ、すべての項目で意識が向上しており、その中でも「積極性」、「想像力」の項目が高くなっていた。本研究では、学生主体の食育活動の取り組みを学生が実施する上での効果的な食育指導の

令和3年12月6日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)5560 FAX 0877(49)5252
Email kakibuchi@kjc.ac.jp

方法や学生が食育ボランティア活動に参加することで得られた学びについて知り、今後の活動へ活かしていくことを目的にアンケートを実施し、検討した。

II 方法

1. 調査対象者

本研究は、香川短期大学生活文化学科食物栄養専攻令和2年度～3年度在籍学生のうち、令和2年12月～令和3年11月までの間に実施された食育ボランティア活動に参加した者を対象とした。この間実施した食育ボランティア活動の概要を表1に示した。活動に参加した学生は食物栄養専攻2年生21名（令和3年7月までの前期参加者21名それ以降の後期参加者17名）、1年生（令和3年後期参加者のみ）10

名の合計31名であった。

2. 調査方法

対象者には、食育活動に関するアンケートを実施し、その結果により学修意欲等を検討した、また、令和3年7月、11月の2回にわたり、同一のアンケート（図1）を実施し、その結果を検討した。

なお、このアンケートで用いた「社会人基礎力」には3つの能力と12の能力要素があり、3つの能力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」である。また12の能力要素についてはそれぞれの3つの能力項目ごとに最も必要であった能力要素を選択する質問を実施した。

7月実施のアンケート回収数は2年生20名（回収率95%）、11月実施は2年生15名、1年生7名の合計22名（回収率81%）であった。

表1 食育ボランティア活動の概要

活動日	活動名	活動内容	活動者数
令和2年 11/21 (土)	(公財) 明治百年記念香川県青少年基金 「学生による企画提案活動」	生活文化にふれよう！—郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう—	23名 (1年16名, 2年7名)
令和2年 12/4 (金)	レスパス子ども食堂事業	農林水産省の「食育推進事業」によるボランティア (献立作成・買い出し・調理)	7名 (1年4名, 2年3名)
令和2年 12/18 (金)	レスパス子ども食堂事業	農林水産省の「食育推進事業」によるボランティア (食育指導・献立作成・買い出し・調理)	18名 (1年11名, 2年7名)
令和3年 1/8 (金)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理)	8名 (1年8名)
令和3年 1/22 (金)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理)	7名 (1年7名)
令和3年 2/10 (水)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理)	7名 (1年7名)
令和3年 2/22 (月)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (食育指導・献立作成・買い出し・調理)	11名 (1年8名, 2年3名)
令和3年 3/18 (木)	(公財) 明治百年記念香川県青少年基金 「学生による企画提案活動」	公財) 明治百年記念香川県青少年基金助成による学生による企画提案活動支援事業の報告会	18名 (1年11名, 2年7名)
令和3年 6/18 (金)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理)	7名 (2年7名)
令和3年 6/25 (金)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理)	7名 (2年7名)
令和3年 8/6 (金)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (調理)	5名 (2年5名)
令和3年 8/17 (火)	レスパス子ども食堂事業	子ども食堂運営ボランティア (献立作成・買い出し・調理・おやつ作り)	9名 (2年9名)
令和3年 11/13 (土)	(公財) 明治百年記念香川県青少年基金 「学生による企画提案活動」	生活文化にふれよう！ —カンタン・ヘルシー*「地産地消」ワンプレートランチ—	27名 (1年10名, 2年17名)
令和3年 11/17 (水)	附属幼稚園4歳児クッキング	4歳児クッキング (さつまいもスコーン作り)	15名 (2年15名)

3. 解析方法

得られた値は度数と%で示した。なお前期調査時点で計8回の活動中5回以上参加した者を多経験群(n=8)、5回未満の者を少経験群(n=12)として集計を行った。後期調査時点で計14回の活動中7回以上参加した者を多経験群(n=7)、2回以上7回未満の者を少経験群(n=7)、1回の者を初回群(n=7)として集計を行った。群間における平均の差の検定には対応のない検定を用いた。また、これらの統計解析は、統計ソフトIBM SPSS Statistics Version 21を用い、統計学的有意水準は5%とした。

4. 倫理的配慮

本研究の実施に当たっては対象者には本研究の目

的、調査への協力については任意であること、個人情報保護することなどを説明し、アンケート調査の協力をもって、同意を得たものとした。なお本研究については香川短期大学倫理審査委員会の承認を得たうえで実施した(受付番号 20210101)。

Ⅲ 結果

1. 食育実践活動報告

(1) 令和2年度及び令和3年度明治百年記念香川県青少年基金助成事業「学生による企画提案活動支援事業」の概要

平成23年度から実施している明治百年記念香川県青少年基金事業は、平成30年度までは生活文化専攻

令和3年度食育ボランティアに関するアンケート (回目)	
食育活動に関するボランティア活動に参加してくれた学生さんにアンケートのご協力をお願いしたいと思います。2年生におきましては、再度のお願いをいたします。大変お手数をかけますがご協力をよろしくお願いたします。	
本アンケートは、食育活動に関する研究の一環で行うものであり、ここに回答された内容については、個人を特定できないように無記名で集計することとし、個人情報以外に漏れることは一切ありません。なお、アンケートにはできるだけ協力いただきたいと思いますが、ご協力は任意であり、ご協力いただけない場合であっても成績等、何ら不利益を被ることはありません。	
研究代表者： 香川短期大学 食物栄養専攻 垣淵直子	
学年 2年生 1年生 その他	5. 今後の活動について特に頑張ろうと思ったものを1つ選んでください。 ①授業・実習 ②情報収集 ③学内の人とのコミュニケーション ④学外の人とのコミュニケーション ⑤その他:
1. 食育ボランティア活動に参加したのすべてにチェックをお願いします。これから参加する予定(希望するもの)も含めてください。	
2. なぜ食育ボランティア活動に参加しようと思いましたか? 当てはまるものにチェックをお願いします。(複数回答可) ①活動に興味を持った ②新しいことに挑戦したい ③子どものために何かしたい ④子どもが好き ⑤地域貢献がしたい ⑥活動を通して仲間を増やしたい ⑦自分の技術・能力をいかしたい ⑧就職に有利 ⑨友人や先生にすすめられた ⑩楽しそうだった ⑪時間に余裕があった その他 ()	6. この活動を通して行う前よりも特に身についたと思うものをすべてにチェックしてください。(複数回答可) ①情報収集力: 必要な情報を集める力 ②情報分析力: 集めた情報を分析する力 ③構想力: 解決策を考える力 ④課題発見力: 解決すべき課題を見つけ出す力 ⑤言語処理能力: 日本語の運用に関する基礎的能力 ⑥非言語処理能力: 情報を読み解くために必要な(言語以外)基礎的な能力
3. 栄養士として働くことに役立つと思いますか? ①とても思う ②まあまあ思う ③どちらともいえない ④あまり思わない ⑤まったく思わない	7. この活動では次の(前に踏み出す力)中でどの能力が特に必要であると感じましたか? 最も必要であったと思う能力を次の中から1つ選んでください。 ①主体性: 物事に進んで取り組む力 ②働きかけ力: 他人に働きかけ巻き込む力 ③実行力: 目標を設定し確実に行動する力
4. 今後も同様の活動をしたいと思いますか? ①とても思う ②まあまあ思う ③どちらともいえない ④あまり思わない ⑤まったく思わない	8. この活動では次の(考え抜く力)中でどの能力が特に必要であると感じましたか? 最も必要であったと思う能力を次の中から1つ選んでください。 ①課題発見力: 現状を分析し、目的や課題を明らかにする能力 ②計画力: 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 ③想像力: あたらしい価値を生み出す力
	9. この活動では次の(チームで働く力)中でどの能力が特に必要であると感じましたか? 最も必要であったと思う能力を次の中から1つ選んでください。 ①発信力: 自分の意見をわかりやすく伝える ②傾聴力: 相手の意見を丁寧に聴く力 ③柔軟性: 意見の違いや立場の違いを理解する力 ④状況把握力: 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 ⑤規律性: 社会のルールや人との約束を守る力 ⑥ストレスコントロール力: ストレスの発生源に対応する力
	10. この活動を通して感じたことや感想をお願いします。(自由記載)

図1 食育活動に関するアンケート

と食物栄養専攻の学生が交互にリーダーとなる学生をたて、共同で開催してきた（表2）。令和元年度からは、食物栄養専攻の学生が単独で実施主催となり、実施してきた。本報告で対象となる学生が活動を行った令和2・3年度における活動状況については表1に示した。

①令和2年度事業の実施状況（当日までの流れ）

令和2年度実施状況の当日までの流れは図2に示したとおりである。

②令和2年度事業の実施状況（当日の流れ）

令和2年度実施状況の当日の流れは図3に示したとおりである。実施日時は令和2年11月21日（土）9：00～13：00、実施場所は香川短期大学食物栄養棟にて実施した。食育教室は「かがわの特産物について」と題して食育ゼミの学生2名が実施した。また調理実習は、「郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう！」と題し、初めに調理実演を食育ゼミの学生2名が実施したのち開始した。喫食では新型コロナ対策を行った上での試食となった。

③令和2年度事業の実施状況（事業後の流れ）

令和2年度実施事後処理は図4に示したとおりである。当日アンケートの他、実施2か月後にもアンケートの作成及び集計を行った。また、それら実施内容について、令和3年3月18日に香川県社会福祉総合センターにて開催された報告会へ参加、代表者がプレゼンテーションを実施した。

④令和3年度事業について

令和3年度の事業は図5に示したとおりである。実施日時は令和3年11月13日（土）9：00～13：00、実施場所は香川短期大学食物栄養棟にて実施した。食育教室は「カンタン・ヘルシー♪“地産地消”ワンプレートランチ」と題して食育ゼミの学生2名が栄養バランスのよい食事についてクイズを交えての話をした。また続けて、「カンタン・ヘルシー♪“地産地消”ワンプレートランチ」の調理実習を実施した。

表2 （公財）明治百年記念香川県青少年基金「学生による企画提案活動」の概要

年度	内 容	主催	参加のべ人数 主催者を含む
平成23年度	小学生を対象とする 食育と食品廃材を利用したエコ染色	食物栄養専攻 生活文化専攻	35名
平成24年度	生活文化にふれよう！ ～型染め布うちわの製作と旬・地域の食材を用いたばらずしの調理～	生活文化専攻 食物栄養専攻	49名
平成25年度	生活文化にふれよう！ ～オリジナルお正月飾りの製作と旬・地域の食材を用いたお正月料理の調理～	食物栄養専攻 生活文化専攻	53名
平成26年度	生活文化にふれよう！ ～マイお弁当グッズの製作とお弁当づくり～	食物栄養専攻 生活文化専攻	80名
平成27年度	生活文化にふれよう！ ～オリジナル朝食グッズの製作と簡単朝食クッキング	生活文化専攻 食物栄養専攻	79名
平成28年度	生活文化にふれよう！ ～和食のやさしいマナー教室と行事食クッキング～	食物栄養専攻 生活文化専攻	67名
平成29年度	生活文化にふれよう！ ～昔のあそび体験と簡単お豆クッキング～	生活文化専攻 食物栄養専攻	63名
平成30年度	生活文化にふれよう！ ～クリスマスリース作りとクリスマス料理の調理実習～	食物栄養専攻 生活文化専攻	100名
令和元年度	生活文化にふれよう！ ～絵本のお話と絵本'sクッキング～	食物栄養専攻	101名
令和2年度	生活文化にふれよう！ ～郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう！～	食物栄養専攻	49名
令和3年度	生活文化にふれよう！ ～カンタン・ヘルシー♪“地産地消”ワンプレートランチ～	食物栄養専攻	51名

令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業当日までの流れ

1. 事前準備（令和2年7月～11月）
事前全体ミーティング（令和2年9月24日）
事業に使う媒体、内容の検討
2. 広告（チラシ）作り
3. 短大HP等で参加者募集
HP及び前回参加者へメール
4. 新聞社、ケーブルテレビ局へ取材を依頼
5. 食事メニューの試作や準備
6. レジメの作成
7. 参加者の決定：
参加受付メールの送付と
健康チェック表の郵送
8. 食育教室で使用するPPの作成
9. 当日アンケートの作成
10. 参加者への連絡

生活文化にふれよう！
【特別】食育推進協議会香川県青少年基金助成事業
食育推進協議会香川県青少年基金助成事業

「郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう！」

開催場所：高松東高等学校 食育実践室
日時：令和2年11月21日（土）9:00～13:00
対象：香川県在住の小学生～高校生
定員：20名（先着順）
参加費：無料
申込先：高松東高等学校 食育実践室
〒760-0801 香川県高松市東町1-1-1
TEL: 087-821-1111
FAX: 087-821-1112
E-MAIL: info@shikoku-nippon.com

申込書

申込者 姓 名	性別	年 齢	学 年
申込者 姓 名	性別	年 齢	学 年
小中学校 名	TEL		
アットネース 名	住所		
保護者 名	保護者等の併記入欄記入者名を 記入してください		
アットネース	〒 所在地		

高松東高等学校 食育実践室 香川県高松市東町1-1-1
TEL: 087-821-1111 FAX: 087-821-1112 E-MAIL: info@shikoku-nippon.com

学生が作成したチラシ

試作
メニュー

主食：おにぎり(さつまいも・大豆)
主菜：はまらの照り焼き
たまご焼き
副菜：付け合わせ(ブロッコリー
トマト)ほうれん草のおひたし
汁物：豚汁
果物：キウイフルーツ

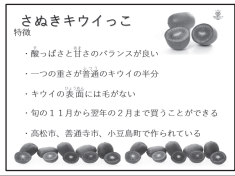


香川の特産物を知ろう

さぬきキウイ

特徴

- ・酸っぱさと甘さのバランスが良い
- ・一つの重さが普通のキウイの半分
- ・キウイの裏面には毛がない
- ・旬の11月から翌年の2月まで買えることができる
- ・高松市、善通寺市、小豆島町で作られている



食育教室のスライドの1部

図2 令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業当日までの流れ

令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業当日の流れ

（公社）明治百年記念香川県青少年基金助成事業
実施日時：令和2年11月21日（土）9:00～13:00
参加人員：児童19名・保護者等12名

1. 受付の様子
2. 代表のあいさつ
3. 「かがわの特産物について」の食育教室
4. 調理実習前に全員で記念撮影

5. 調理実習
6. 喫食

図3 令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業当日の流れ

令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業後の流れ

○事後処理（令和2年11月～令和3年3月）

1. 当日アンケートの集計
2. 参加者へ写真等電子媒体の送付
3. 短大HP等で実施報告
 - HP及び新聞媒体、ケーブルテレビ
 - YouTube動画 を参加者へも告知
 - <https://youtu.be/BvihZhS05mc>
4. 実施2か月後アンケートの作成・郵送
 - アンケート集計
5. 令和2年度報告会発表資料の作成
 - および発表練習
6. 令和2年度（公財）明治百年記念香川県青少年基金
 - 「学生による企画提案活動報告会」への参加

実施2か月後アンケート（児童）

- ・学校の弁当の日に講習で習ったことを思い出しながらお弁当を作った。おいしい卵焼きが作れました。
- ・色々な料理が作れて楽しかった。お手伝いもたくさんしたいです。卵焼きを上手に焼けたのでうれしかったです。
- ・料理の手伝いをあまりできていないけど、お弁当は作れるようになりました！このイベントを開催して下さった方々と作り方を教えてくれた人たちに感謝したいです。

実施2か月後アンケート（保護者）

- ・季節のイベント料理も楽しかったですがお弁当もとても楽しかったようです。
- ・今回のような地産地消のお弁当などは地域（自分が住む地）への愛着を深めることもできて、とてもよい体験だったと思います。ありがとうございました！



報告会への参加(香川県社会福祉センター)

図4 令和2年度明治百年記念香川県青少年基金事業後の流れ

令和3年度明治百年記念香川県青少年基金事業の概要

（公社）明治百年記念香川県青少年基金助成事業
 実施日時：令和3年11月13日（土）9:30～13:00
 参加人員：児童19名・保護者等7名

（公社）明治百年記念香川県青少年基金助成事業
 「ワンマンヘルシー」地産地消「ワンプレートランチ」

開催概要・参加人数・実施日時

日時：令和3年11月13日（土）9:30～13:00
 会場：香川県立香川高等学校 調理実習室
 参加人数：児童19名・保護者等7名

実施内容

①地産地消「ワンプレートランチ」の企画・調理実習
 ②調理実習「ワンプレートランチ」の発表
 ③調理実習「ワンプレートランチ」の試作

主催：（公社）明治百年記念香川県青少年基金
協賛：香川県立香川高等学校
協力：香川県立香川高等学校 調理実習室

お問い合わせ先
 香川県立香川高等学校 調理実習室
 〒761-8687 香川県高松市香川町1-1-1
 TEL: 0877-82-0000 FAX: 0877-82-0000
 E-MAIL: info@shikoku-kyoiku.ac.jp

健康チェック表

氏名	性別	学年	健康	アレルギー	備考
20190101	男	1	○		
20190102	女	1	○		
20190103	男	1	○		
20190104	女	1	○		
20190105	男	1	○		
20190106	女	1	○		
20190107	男	1	○		
20190108	女	1	○		
20190109	男	1	○		
20190110	女	1	○		
20190111	男	1	○		
20190112	女	1	○		
20190113	男	1	○		
20190114	女	1	○		
20190115	男	1	○		
20190116	女	1	○		
20190117	男	1	○		
20190118	女	1	○		
20190119	男	1	○		
20190120	女	1	○		
20190121	男	1	○		
20190122	女	1	○		
20190123	男	1	○		
20190124	女	1	○		
20190125	男	1	○		
20190126	女	1	○		
20190127	男	1	○		
20190128	女	1	○		
20190129	男	1	○		
20190130	女	1	○		
20190131	男	1	○		

健康チェック表

氏名	性別	学年	健康	アレルギー	備考
20190101	男	1	○		
20190102	女	1	○		
20190103	男	1	○		
20190104	女	1	○		
20190105	男	1	○		
20190106	女	1	○		
20190107	男	1	○		
20190108	女	1	○		
20190109	男	1	○		
20190110	女	1	○		
20190111	男	1	○		
20190112	女	1	○		
20190113	男	1	○		
20190114	女	1	○		
20190115	男	1	○		
20190116	女	1	○		
20190117	男	1	○		
20190118	女	1	○		
20190119	男	1	○		
20190120	女	1	○		
20190121	男	1	○		
20190122	女	1	○		
20190123	男	1	○		
20190124	女	1	○		
20190125	男	1	○		
20190126	女	1	○		
20190127	男	1	○		
20190128	女	1	○		
20190129	男	1	○		
20190130	女	1	○		
20190131	男	1	○		

表面 学生が作成したチラシ 裏面

試作メニュー

主食：大豆ごはん
 主菜：オリーブはまちのガーリックレモン焼き
 副菜：かぼちゃのサラダ
 汁物：お豆腐汁
 薬物：キウイフルーツ(りんご)
 おやつ：金時にんじん焼きドーナツ

3. 食育ゼミの食育教室

栄養バランスのよい食事には、
 どんないいことがあるの？

④主食・主菜・副菜を組み合わせた
 食事はどちらでしょう

①お米、お豆腐、お肉、お野菜、お果物
 ②かつ丼

栄養（えいよう）とは？

食べた食べ物の力をつかって…

- 体をうごかす
- 体をつくる
- 体の調子をととのえる

地産地消
 (ちさんちしょう)

- ♥お米 (おいでまい)
- ♥かぼちゃ
- ♥たまねぎ
- ♥ブロッコリー
- みんな、香川県でとれたよ！



5. 喫食

図5 令和3年度明治百年記念香川県青少年基金事業の概要

(2) 令和2年度及び令和3年度子ども食堂での活動概要

令和2年度後期より特定非営利活動法人L'espace laboの子ども食堂⁸⁾(以下レスパス子ども食堂)での活動を実施した(表1)(図6)。令和2年12月に実施された2回の子ども食堂の活動は「農林水産省食育推進事業」の助成を受けたもので、学生たちが当日支給された食材を使用した献立を作成し、買い出し、調理を行った。また令和2年12月18日及び令和3年2月22日は、食育ゼミの食育教室を実施し、それぞれ「おはしの持ち方について」「3色食品群について」の食育指導を行った。

令和3年度も引き続き、献立作成、買い出し、調理の子ども食堂での活動を実施した。令和3年8月17日は昼食作りとおやつ作りも行い、明治事業で実施予定である、「にんじんの焼きドーナツ」作りを子どもたちと行った。

2. 学生へのアンケート調査結果

(1) 食育ボランティア活動に対する意識

表3にアンケート結果より抽出した食育ボランティア活動に対する意識について示した。

「なぜ活動に参加しようと思ったか」では、前期、後期とも多経験群では「①活動に興味を持った」と回答した学生が最も多く、全員の学生が答えていた。次に多かった答えが「③子どものために何かしたい」であり、5人(63%)の学生が答えていた。「④子どもが好き」と回答した答えが多かったのは、後期多経験群の5人(71%)であり、前期の2人(25%)から増加していた。後期初回群の答えでは、「①活動に興味を持った」と「②新しいことに挑戦したい」の回答が5人(71%)で最も多かった。

「栄養士として働くことに役立つと思うか」では、前期多経験群8人(100%)、後期多経験群6人(86%)が「①とても思う」と回答した。後期少経験群では、「③どちらともいえない」と回答した者が1人(13%)であった。

今後も同様の活動をしたいと思うかでは、「①と



図6 令和2・3年度 レスパス子ども食堂での活動の概要

表3 食育ボランティア活動に対する意識

なぜ食育ボランティア活動に参加しようと思ったか？（複数回答可）	①活動に興味を持った		②新しいことに挑戦したい		③子どものために何かしたい		④子どもが好き		⑨友人や先生にすすめられた		⑩楽しそうだった	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
前期 多経験群 (n=8)	8	100	2	25	5	63	2	25	2	25	4	50
前期 少経験群 (n=12)	8	67	1	8	1	13	6	50	0	0	3	25
後期 多経験群 (n=7)	7	100	2	29	3	43	5	71	0	0	5	71
後期 少経験群 (n=8)	4	50	1	13	2	25	4	50	0	0	3	38
後期 初回群 (n=7)	5	71	5	71	2	29	1	13	3	43	5	71

栄養士として働くことに 役立つと思うか？	①とても思う		②まあまあ思う		③どちらともいえない	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
前期 多経験群 (n=8)	8	100	0	0	0	0
前期 少経験群 (n=12)	10	83	2	17	0	0
後期 多経験群 (n=7)	6	86	1	14	0	0
後期 少経験群 (n=8)	6	75	1	13	1	13
後期 初回群 (n=7)	5	71	2	29	0	0

今後も同様の活動をしたいと思うか？	①とても思う		②まあまあ思う		③どちらともいえない		検定
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
前期 多経験群 (n=8)	6	75	1	25	0	0	**
前期 少経験群 (n=12)	5	42	4	33	3	25	
後期 多経験群 (n=7)	6	86	1	14	0	0	
後期 少経験群 (n=8)	6	75	2	25	0	0	
後期 初回群 (n=7)	4	57	2	29	1	14	

**p<0.01

でも思う」と回答した者が後期多経験群では6人(86%)で最も多く、前期少経験群では5人(42%)と最も少なかった。また、「③どちらともいえない」と回答した者も、前期少経験群で3人(25%)、後期初回群で1人(14%)いた。

(2) 今後の活動について特に頑張ろうと思ったもの
このボランティア活動後について特に頑張ろうと思ったものについて、質問を行ったところ図7に示すように、前期では「授業・実習」と答えた者が一番多く、多経験群では7人(88%)少経験群で7人(58%)であった。後期では前期同様最も多いのが「授業・実習」であったが、「学外の人とのコミュニケーション」と回答した者が増え、多経験群では3人(43%)、少経験群では2人(25%)であった。初回群では「実験・実習」「学外の人とのコミュニケーション」とも3人(43%)であった。

(3) 活動前よりも特に身についたと思うもの
このボランティア活動前よりも特に身についたもの

については、図8に示すとおり、前期では多経験群では、「構想力」(75%)、「課題発見力」(38%)であった。少経験群では、「情報収集力」(83%)、「構想力」(42%)であった。また後期では、多経験群は「情報収集力」(86%)、「構想力」(43%)であり、少経験群は「課題発見力」(57%)、「言語処理能力」(43%)であった。また初回群は「情報収集力」(57%)、「構想力」(29%)であった。

(4) 3つの能力のうち特に重要と考える能力要素
活動経験の群分けによる3つの能力要素の回答分布については表4に示した。「前に踏み出す力」ではそれぞれの群に回答の差は示されなかったが多経験群では、前期、後期とも「①主体性」との回答が一番多かった。「考え抜く力」では、前期の回答において多経験群と少経験群の間で有意さが認められた(p<0.01)。多経験群では「③想像力」と回答した者(63%)が最も多く、少経験群では「①課題発見力」と回答した者(75%)が多かった。後期の回答では、少経験群と初回群との間に有意差が認めら

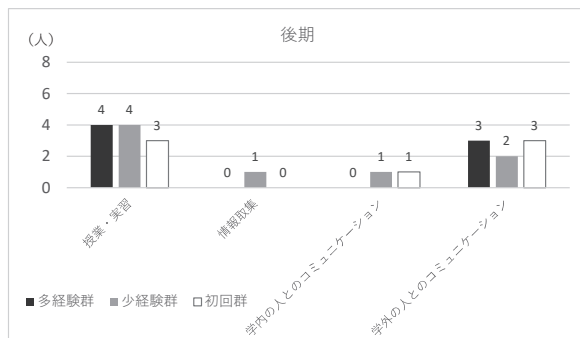
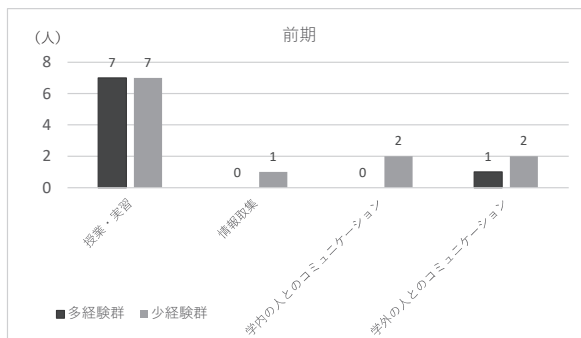


図7 今後の活動について特に頑張ろうと思ったもの

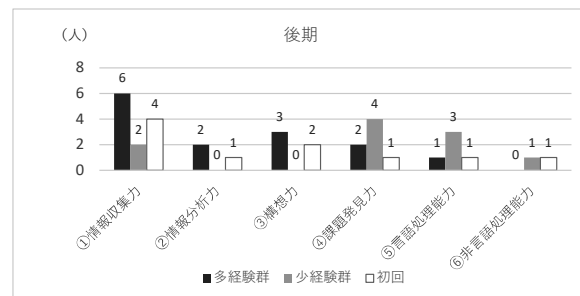
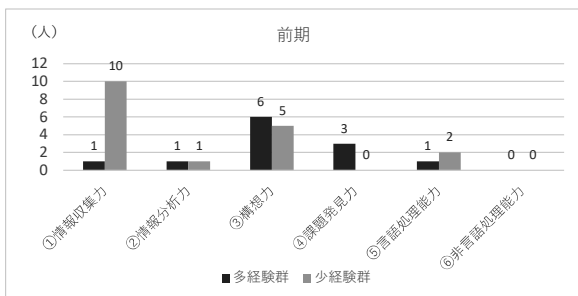


図8 活動前よりも特に身についたもの

表4 活動経験の群分けによる3つの能力要素の回答分布

前に踏み出す力		①主体性		②働きかけ		③実行力		検定
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
前期	多経験群 (n=8)	6	75	0	0	2	25	
前期	少経験群 (n=12)	7	58	2	17	3	25	
後期	多経験群 (n=7)	6	86	1	14	0	0	
後期	少経験群 (n=8)	4	50	0	0	4	50	
後期	初回群 (n=7)	3	43	2	29	2	29	

考え抜く力		①課題発見力		②計画力		③想像力		検定
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
前期	多経験群 (n=8)	0	0	3	38	5	63	**
前期	少経験群 (n=12)	9	75	3	25	0	0	
後期	多経験群 (n=7)	2	29	3	43	2	29	*
後期	少経験群 (n=8)	4	50	3	38	1	13	
後期	初回群 (n=7)	2	29	5	71	0	0	

**p<0.01 *p<0.05

チームで働く力		①発信力		②傾聴力		③柔軟力		④状況把握力		⑤規律性		⑥ストレスコントロール力		検定
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)			
前期	多経験群 (n=8)	1	13	1	13	4	50	2	25	1	13	0	0	**
前期	少経験群 (n=12)	4	33	1	8	4	33	2	17	0	0	1	8	
後期	多経験群 (n=7)	2	29	2	29	2	29	0	0	1	14	0	0	
後期	少経験群 (n=8)	3	38	2	25	1	13	2	25	0	0	0	0	
後期	初回群 (n=7)	0	0	1	14	1	14	5	71	0	0	0	0	
後期	初回群 (n=7)	0	0	1	14	1	14	5	71	0	0	0	0	

*p<0.05

れた ($p < 0.05$)。少経験群では「①課題発見力」(50%)が最も多く、初回群では「②計画力」(71%)の回答が多かった。「チームで働く力」では、前期の回答では有意差は認められなかった。後期の回答では多経験群と初回群の間 ($p < 0.05$)、少経験群と初回群の間 ($p < 0.05$) でそれぞれ有意差が認められた。初回群では「④状況把握力」(71%)と回答する者が最も多かった。

(5) 食育ボランティアに対する意見・感想

食育ボランティアに対する意見・感想は表5に示した。自由記述された意見・感想は、「貴重な(良い)体験」という記述が36%で最も多かった。「学外の方との関りを通した楽しさ」、「参加を通した学び」、「次回参加への意欲」、「やりがい」など肯定的な記述が多かった。「知識、技術の不足」の回答をした者は10%であった。「その他」の意見では、「もっと参加しておけばよかった。」や「子どもたちとあまり関われなかったのが残念だった。」などの意見や「就職してからもこのような機会があれば前向きに参加したい。」「面接などで話すことができた。就職にも一番強いゼミだと思います。」といった意見もあった。

IV 考察

本報告では本専攻における食育実践活動の取り組みについて報告した。平成23年度から実施している明治百年記念香川県青少年基金事業は平成30年度までは生活文化専攻と食物栄養専攻の学生が交互にリーダーとなる学生をたて、共同で開催してきたが、令和元年度からは、食物栄養専攻の学生が単独で実施主催となり実施してきた。特に本専攻は香川県で唯一の栄養士養成であり、地域における食育活動の拠点として実施する⁹⁾ことで学生たちにとっても教育的な効果があると考えられた。令和2年度に実施した「生活文化にふれよう！—郷土の食べ物を使ったオリジナルお弁当を作ろう！—」では食育ゼミの食育教室として、「かがわの特産物について」、令和3年度に実施した「生活文化にふれよう！—カンタン・ヘルシー♪“地産地消”ワンプレートランチ—」では、ランチメニューから主食・主菜・副菜・汁物

のそろった食事について知ってもらうことなどを学生たちがスライドを使用し工夫を凝らした食育指導を実施することができた。また、調理実習では、学生たちがメニューの試作から時間をかけて献立を練り、それを当日は調理のデモンストレーションを実施しながら説明を行い、全体の調理では子どもたちのサポートに徹することで子どもたちの調理に対する達成感や自信を持つことができるようにということを心掛けている。

一方、令和2年度後期より特定非営利活動法人L'espace laboの子ども食堂での活動をスタートした。特に令和2年12月より「農林水産省 食育推進事業」の助成を受け、「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育む等の食育を行うことを目的に、国産品の食材を使用した子ども食堂を開催することになり、その目的遂行のために本専攻の学生たちの協力が不可欠であったためである。

農林水産省が、20歳以上の男女約3000人に、食生活や食料消費の実態を把握するために行ったアンケート調査によると、(ア)日常的な欠食、(イ)ごはん食の頻度が低い、(ウ)外食、中食、冷凍・レトルト食品、缶詰、インスタント食品の夕食が多い、(エ)調理ができないの4つの食習慣について、該当する項目が多いほど、主食・主菜・副菜をそろえて食べる「日本型食生活」の実践度が低くなっていると報告されている¹⁰⁾。そしてこれらの4つの食習慣を改め、栄養バランスを整えるために、ごはん食のメリットの認知、外部サービスも活用した日本型食生活の実践等「食事を準備する力」を、段階的に、分かりやすく推進することが重要であるとされている。また、食育の推進という観点から見た子ども食堂の意義について (a) 子供にとっての貴重な共食の機会の確保 (b) 地域コミュニティの中での子供の居場所を提供等の積極的な意義が認められている¹¹⁾。平成29年に実施された子供食堂向けアンケート調査によると「主な活動目的として意識していること」では「多様な子供たちの地域での居場所づくり」が最も多く回答があり、「提供する食事で意識していること」では「主食・主菜・副菜をそろえている」が最も多い72.6%が回答していた¹²⁾。本専攻における食育活動では、これらにあげられた

表5 食育ボランティアに関する意見・感想

カテゴリー	記述数 (%)	記述例
貴重な(良い)体験	15 (36)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加して良かった。 ・実習では体験できないことができたので参加してよかったと思う。 ・子供たちが美味しいと笑顔で食べてくれてすごく嬉しく感じた。 ・最初は、こんな自分がうまくできるのだろうかと思っていたが、やってみると案外楽しかった。 ・小学生に分かりやすく伝えるのが少し難しかったけれど、とてもいい経験になり、楽しかったということ。 ・子どもの食育に関われたことは、今後栄養士として働くうえで大変貴重な経験となった。 ・人との関わり方について更に知れていい経験だったと思う。 ・今年初めて主体となって活動に参加させて頂きましたが、とても良い経験になり、就職後も学んだ事を胸に仕事に励みたいと思う。 ・今まであまり話したこと無かった人や、後輩とも話せたためいい経験になった。
学外の方との関わりを通した楽しさ	11 (26)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な個性ある子どもたちと接することが出来、楽しい。 ・ボランティア参加して楽しかった。 ・子ども食堂でこどもとかかわる楽しさがしれた。 ・学外の方と食を通して関わることでできてすごく楽しかった。 ・子供たちと遊ぶこともできて料理もできるので楽しかった。 ・子供と料理することは本当に楽しかった。 ・私は子供と接するのは苦手意識があったので最初は参加しないつもりだったが、友達に誘われたので子ども食堂に参加した。参加してみても思ったことは前よりも子どもたちと話すことができてすごく楽しかった。 ・初めての挑戦で緊張したが、和やかな雰囲気でのコミュニケーションしとりながら調理できたのでとても楽しく活動できた。
参加を通した学び	6 (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・食育教室・調理実習ともに、相手の年齢や能力に応じて分かり易く伝えるための訓練となった。 ・この活動がきっかけで子どもたちと関わることができ、将来どんな栄養士でいたいのか見つけることができた。 ・子供たちが食べる量や速さをしれた。 ・子供だけではなく、大人とのコミュニケーションも取れて良かった。 ・相手を考えてコミュニケーションを取ることが大切だと実感した。 ・積極的に物事に取り組む姿勢の大切さが分かった。
次回参加への意欲	5 (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に興味があるので、これからもボランティアに積極的にかかわりたい。 ・事業が子どもたちにとっても、学生にとっても意義のあるものになるよう、残りの期間を精いっぱい努めたい。 ・これからも色々な活動に参加したいと思った。 ・初めて活動してみても先輩たちのように1から計画し実行できるようになりたいと感じた。
知識、技術の不足	4 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・反省点も多く、能力不足を感じているが、勉強や経験を通して克服していくしかないと考えている。 ・料理をするにあたって自分が思っていたより子供たちは真剣で出来るが多かった反面、私はまだまだ未熟者だと感じるところがあった。 ・計画性や主体性の面では不十分な点が多く、反省は多々ありますが、自分自身の成長にもつながる有り難い経験となった。今後も食育活動に関わらせていただきたい。
やりがい	4 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・大人数の料理を作るやりがいを感じた。 ・活動自体はこれからですが、すでに自分の糧になっている。子供達に食事の大切さを届けていきたい。
その他	4 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・教える立場であるけど、話しをしたり一緒に何かを作るという経験がたくさんできてもっと参加しとけばよかったと思った。 ・子ども食堂の分担では、調理場が狭いために自分は調理ばかりを担当することとなり、子どもたちとあまり関われなかったのが残念だった。 ・大学に入学して挑戦したかった「食育」をゼミを通して活動できているのですごく充実できている。就職してからもこのような機会があれば前向きに参加したい。 ・面接などで話すことができた。就職にも一番強いゼミだと思います。

n = 42

「前期」「後期」とも自由記述欄に記入。1人で複数の記述あり。

「日本型食生活の実践等」に役立つ活動となっている。

活動後に行ったアンケート結果より、活動に参加したきっかけについては、「活動に興味を持った」「子どものために何かをしたい」の順で多かった。西田ら²⁾が行った調査と同様、対象学生は食育活動の企画・実施が自身の成長や将来の栄養士業務において役立つものであると認識しており、活動内で担当した役割に関わらず活動に対する満足度は高いことが伺われた。さらに、食育活動に対して、ほとんどの学生が「今後も行いたい」と回答しており、地域に対する貢献活動に対しての意欲を引き出すことができたと思われた。

「特に活動後になんげしたいこと」では、5～8割の学生が「授業・実習」と回答し、本活動によって学修意欲を向上させる役割も担っていたと考えられた。特にこの傾向は多経験群で顕著であった。

永井ら¹³⁾は、管理栄養士養成の領域において「コンピテンシー」という用語を「高い業績を出す個人の行動特性」という意味で用いることとし、ある職業特有のコンピテンシーの構造や枠組みを表したものを「コンピテンシー・モデル」、このモデルに基づいて抽出した個々のコンピテンシーを「コンピテンシー項目」と表すこととした。また国内外の保健医療職のコンピテンシー導入例からコンピテンシーの枠組みを調べた結果から管理栄養士のコンピテンシー・モデルを作成されている。

本研究では経済産業省が提唱する働く人の基本的なコンピテンシーである社会人基礎力の能力要素12項目について自己評価を行うことで食育ボランティア活動の効果を検討した。「活動前よりも特に身についたと思うもの」では、多経験群は「情報収集力」、「構想力」であり、少経験群は「課題発見力」、「言語処理能力」であった。特に多くの活動に参加した者ほど複数の能力がついたと回答する割合が高く、本活動が効果的であったと考えられた。

次に、学生たちが食育ボランティア活動を実施した後、3つの能力のうち特に重要と考える能力要素について検討を行った。「前に踏み出す力」ではそれぞれのグループに回答の差は示されなかったが多経験群では、前期、後期とも「主体性」との回答が一番多かった。より経験を多く行った者は「主体性

＝物事に進んで取り組む力」を重要としていることが分かった。「考え抜く力」では、群間で有意差が認められ、多経験群では「想像力＝あたらしい価値を生み出す力」と回答した者が最も多く、少経験群では「課題発見力＝現状を分析し、目的や課題を明らかにする能力」と回答した者が多かった。また後期の調査では初回群では「計画力＝課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」の回答が有意に多かった。経験の差により、重要と考える能力要素について差があることが認められた。「チームで働く力」では、前期の回答では有意差は認められなかったが後期の回答では多経験群と初回群の間 ($p < 0.05$)、少経験群と初回群の間 ($p < 0.05$) でそれぞれ有意差が認められた。初回群では「状況把握力＝自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」と回答する者が最も多かった。

同様の調査を行った緒方ら¹⁴⁾は、健康イベントを契機として能力の向上につながったと考えられた項目として学生たちが「実行力」「発信力」を挙げていると報告している。本研究でも「発信力＝自分の意見をわかりやすく伝える」は重要と考える能力要素として多経験群や少経験群で挙げている学生が多く、ボランティア活動を通して、これらの能力の向上につながったと考えられた。

食育ボランティアに対する意見・感想では、「貴重な(良い)体験」「学外の方との関りを通した楽しさ」などの肯定的な意見が多く聞かれた。またこのボランティア活動を通して、「参加を通した学び」から「この活動がきっかけで子どもたちと関わることができ、将来どんな栄養士でいたいのか見つけることができた。」といった意見も聞かれた。またこの活動を通して「次回参加への意欲」や「やりがい」を見出した者もいた。その他の意見としては、「教える立場であるけど、話しをしたり、一緒に何かを作るという経験がたくさんできてもっと参加しとけばよかったと思った。」という意見もあり、全体的に前向きな意見が多かった。また、課題として残ったことは「知識・技術の不足」として挙げられた「反省点も多く、能力不足を感じているが、勉強や経験を通して克服していくしかないと考えている。」という意見や「料理をするにあたって自分が思っていたより子供たちは真剣で出来るが多かった反

面、私はまだまだ未熟者だと感じるどころがあった。」という自分自身の能力について未熟とする自己評価があったことである。この様な意見から、学生たちが経験を通して、自分の能力で足りない面を理解するよい機会となっていることが示唆された。その他、「子どもたちとあまり関われなかった。」という意見もあり、今後計画を進めていくうえで、学生たちがまんべんなく参加者とかかわれる機会を作れるような計画が必要であることが分かった。

また、管理栄養士養成施設において地域連携事業の参加の有無と社会人基礎力との関連について検討を行った村井ら¹⁵⁾の報告では、学生全体の傾向として「考え抜く力」は向上しにくく、その能力要素である「創造力」の向上と関連していることが示唆された。「情況把握力」はこれらプロジェクトに参加することにより向上し、地域連携事業で向上が期待できる能力要素であると示唆している。

赤松ら¹⁶⁾はコンピテンシーを基本とした保健医療従事者の教育に関する報告において、基本コンピテンシーは知識やスキルではないため、知識伝達型の教育では高めることが難しいこと、態度を変容させ、管理栄養士として専門職に就くモチベーションを高める教育、いわゆる行動変容を促す教育を参考に、基本コンピテンシーを高める教育を開発していく必要があるとしている。そういったことから、食育ボランティア活動の体験は知識伝達型の教育とは違い、栄養士に関する専門的能力を高めることに貢献すると考えられた。

村井ら¹⁷⁾は、社会人基礎力を地域連携事業の評価の指標としてのみ活用してきたが、「糖尿病フェスタ」を通して向上させたい社会人基礎力の能力要素を3つまで選択させ、育成のための指標としても利用し、最も多い58.2%の学生が向上させたいと選択した能力要素は「発信力」であり、事前評価では最も低い得点を示した要素であったと報告している。本研究でも学生たちが食育ボランティア活動を実施した後、3つの能力のうち特に重要と考える能力要素について検討を行ったが、今後は栄養士の基本コンピテンシーを高める教育との関連も含め、ボランティア活動を経験した学生だけではなく、食物栄養専攻全学生を対象とした調査として実施していきたいと考えている。そこで、この様な調査と学生の修

学に対する取り組みや就職活動との関連についても調査検討をすすめる必要があることが示唆された。

V まとめ

栄養士養成課程学生の地域での学生主体の食育活動が学生の学びに及ぼす影響について、社会人基礎力の能力要素を用いたアンケートを実施し検討を行った。学生たちが食育ボランティア活動を実施した後、3つの能力のうち特に重要と考える能力要素について検討を行った結果、「前に踏み出す力」ではそれぞれのグループに回答の差は示されなかったが多経験群では、前期後期とも「主体性」との回答が一番多かった。より経験を多く行った者は「主体性=物事に進んで取り組む力」を重要としていることが分かった。本研究でも「発信力=自分の意見をわかりやすく伝える」は重要と考える能力要素として多経験群や少経験群で挙げている学生が多く、ボランティア活動を通して、これらの能力の向上につながったと考えられた。

謝 辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に深く謝意を申し上げます。また、学生ボランティア活動にご協力いただきましたL'espace labo子ども食堂関係者の方を初めとする多くの皆様に対し、深く感謝申し上げます。

本研究の一部の活動においては公益財団法人明治百年記念香川県青少年基金の助成を受けて実施されたことについてお礼申し上げます。なお、本研究の一部は第68回日本栄養改善学会学術集会（オンライン）にて報告を行った。

参考文献

- 1) 菅原千鶴子, 森谷梨, 清水やよい, 樋本浩司, 荒川義人: 就学前の子どもを育てる母親に対する継続食育教室の効果, 日本食育学会誌 6 (2), 184-196. (2012)
- 2) 西田江里, 外尾亜利珠, 小玉智章, 大河内友美, 馬場智子, 林田美鳥: 地域食育活動の企画・

- 実施が栄養士養成課程在学生の学習意欲および社会人基礎力におよぼす影響, 長崎短期大学紀要, 31, 59-63. (2019)
- 3) 西田江里, 大河内友美, 外尾重利珠, 馬場智子, 高江洲有沙, 小玉智章: 食育ボランティア活動の企画・実施が栄養士養成課程在学生の学習意欲や社会人基礎力に及ぼす影響, 長崎短期大学紀要, 32, 45-50. (2020)
- 4) 農林水産省: 第4次食育推進基本計画 <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/kannrenhou-24.pdf> (2021年11月13日)
- 5) 齊藤佳子, 垣渕直子, 田中里沙, 次田一代: 本学学生の小学生を対象とした「生活文化にふれよう」の数年間の取り組み-学生による企画提案活動の一環として-, 香川短期大学紀要, 42, 69-78. (2017)
- 6) 垣渕直子, 多田紗矢香, 齊藤佳子, 次田一代: ボランティア活動を体験した学生の変化・成長-ボランティア参加者の調査結果から-香川短期大学紀要, 42, 69-78. (2014)
- 7) 経済産業省: 社会人基礎力 <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (2021年11月13日)
- 8) 辰巳裕子: こども食堂の役割と意義: 宇多津町における子ども食堂の取り組み, 香川短期大学紀要 49, 185-192. (2021)
- 9) 渡辺ひろ美, 垣渕直子, 松永美恵子, 村川みなみ, 上北采佳, 田中里沙, 大澤有未, 次田一代, 山西重機: 近年における香川短期大学食物栄養専攻課程の活動, 香川短期大学紀要, 45, 499-522. (2017)
- 10) 農林水産省: 「日本型食生活」のススメ https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nihon_gata.html (2021年11月13日)
- 11) 農林水産省: 子供食堂と連携した地域における食育の推進 https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_syokudo.html (2021年11月13日)
- 12) 農林水産省: 参考資料 (子供食堂向けアンケート調査) <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/kodomosyokudo-40.pdf> (2021年11月13日)
- 13) 永井成美, 赤松利恵, 長幡友実, 他: 卒前教育レベルの管理栄養士のコンピテンシー測定項目の開発, 栄養学雑誌, 70, 49-58 (2012)
- 14) 緒方雅子, 東保美香, 土谷洋子, 藤岡竜太, 衛藤大青, 島田隆樹, 岡本昭, 海陸留美, 真部健一, 立松洋子: 栄養士養成課程における「健康展」を通じたアクティブ・ラーニングの試み, 別府大学短期大学部紀要, 37, 9-16. (2018)
- 15) 村井陽子, 多門隆子, 堀野成代, 竹山育子, 杉山文, 水野浄子: 地域連携事業が管理栄養士養成課程の学生に及ぼす効果~社会人基礎力の自己評価より, 相愛大学研究論集32, 1-9, (2016)
- 16) 赤松利恵, 永井成美, 長幡友実, 吉池信男, 石田裕美, 小松龍史, 中坊 幸弘, 奈良信雄, 伊達ちぐさ: 管理栄養士に関する基本コンピテンシーの高い学生の特徴-卒業年次の学生の自己評価による調査結果の解析-, 栄養学雑誌, 70, 110-119 (2012)
- 17) 村井陽子, 多門隆子, 竹山育子, 岸田由岐, 杉山文, 堀野成代: 管理栄養士養成課程の実習科目の中に位置付けた地域連携事業の効果, 栄養学雑誌, 74 (5), 148-155. (2016)